

## シャオペン ADR (XPEV)

【セクター】 電気自動車 (EV)

【市場】 NYSE

## 【企業概要】

中国の新興EV（電気自動車）メーカー。スマートEVをコンセプトに、2018年にコンパクトSUVの「G3」、2020年にスポーツセダンの「P7」、2021年10月に新型セダンの「P5」（世界で初めて「LiDAR」（自動運転の目として欠かせないセンサー）を標準装備する量産型EV）を販売開始しました。その後、超高速充電が可能なスマートSUVの「G9」（中高価格帯EV）と新型SUV「G6」（中価格帯EV）を発表し、それぞれ2022年10月、2023年7月に納車を開始しました。

【業績】（単位：売上高、純利益は百万人民元、EPS、1株配当、BPSは人民元、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

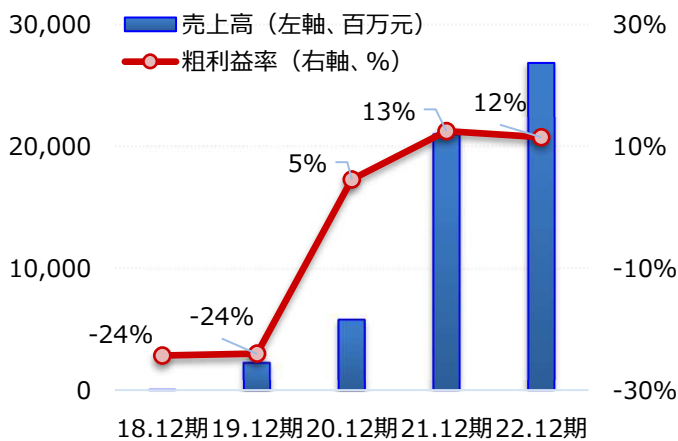
決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
21.12期	20,988	-4,483	-5.46	0.00	24.6	-12.7	64.2
22.12期	26,855	-8,428	-9.84	0.00	21.4	-23.1	51.6
23.12期（予）	31,707	-10,404	-11.10	0.00	27.0	-32.1	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

(出所) BloombergのデータよりSBI証券作成

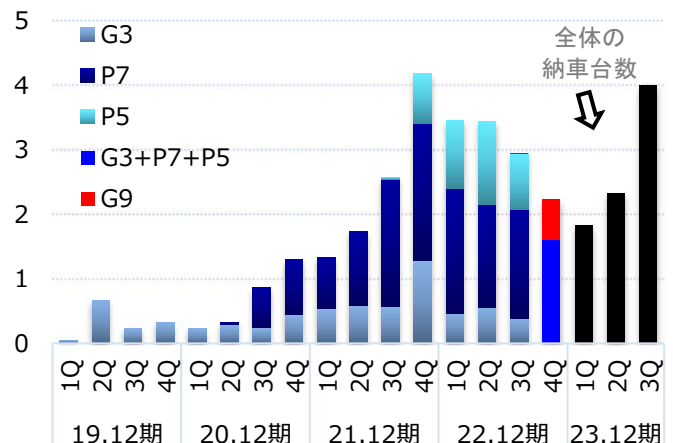
## 【主要指標】

売上高と粗利益率の推移（通期ベース）



(出所) 会社資料よりSBI証券作成

車種別の納車台数（万台、四半期ベース）



(出所) 会社資料よりSBI証券作成

## 【会社の見方】

共同創業者の何小鹏CEOはソフトウェア分野で成功を収めた後、EV市場に参入。自社で自動運転ソフト「XPILOT」を開発し、ソフトウェアで差別化を図っています。主力車種のスポーツセダン「P7」は発売から2年弱で販売台数が10万台を突破。「P7」の販売拡大はスケールメリットをもたらし、粗利益率は21.12期に13%まで上昇しました。しかし、その後は販売が苦戦し、粗利益率は低下しました。同社は比較的利益率が高い中高価格帯EV「G9」を投入しましたが、「G9」の売れ行きはパツとしませんでした。挽回を図るべく、2023年7月に中価格帯EVの新型SUV「G6」を販売開始。「G6」がヒットし、「P7」のようにスケールメリットが実現できれば、業績回復も期待できるかもしれません。フォルクスワーゲンによる出資は、同社にとって短期的な影響は限定的ですが、中長期的にはキャッシュフローの改善と製品ラインの拡充が見込まれ、好材料と言えます。

## 【見通し・注目点】

3Qは売上が市場予想を下回りましたが、損失額は予想より良好で、粗利益率は2Qの-3.9%から-2.7%に改善しました。4Qについて経営陣は、新製品と効率化により、粗利益率は大幅に改善する見通しだとコメント。4Qの納車台数見通しは5.95万-6.35万台で市場予想を上回りました。10月の販売実績（2万台）からすると、ガイダンス達成は可能とみられます。

**本レポートに関するご注意事項**

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

**手数料及びリスク情報等**

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。